

REPORT

編集・発行／一般財団法人
大阪国際児童文学振興財団
〒577-0011
東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL 06(6744)0581 FAX 06(6744)0582

<http://www.iiclo.or.jp/>

戦後79年

理事長 宮川健郎

2024年は、たいへんな猛暑を
すごしました。

暑さのなか、8月から9月にかけて、
神奈川近代文学館で企画展「没
後10年―古田足日のぼうけん」が開
催されました。編集委員をつとめた
のは、佐藤宗子さんと私です。

今回の企画展の目玉の一つが、「初
期評論」のコーナーに展示された、
早大童話会の「少年文学」の旗の下
に！（「少年文学」1953年9月）
の草稿です。少し前に古田先生のご
遺族から神奈川近代文学館に寄贈さ
れた資料のなかから発見されました。

「科学は常識によってさえぎられ、
変革は権力によってばまれる。発展
と進歩の芽生えるところ、古きものは
常に全力をあげてその歯車の前進をさ
またげた。だが同時に、勝利は常に新
しきものの側にかがやく。これは歴史
の宿命であり、必然であった。」

いまここに、新しきもの、変革をめ
ざすものが生まれた。「少年文学」の
誕生、すなわちこれである。

このように書き出され、「少年文
学宣言」とも呼ばれる文章は、早稲
田の学生時代の鳥越信の起草だとい
われてきましたが、そこに記されて
いるのは、ほんとうに鳥越先生の手
による文字でした。鳥越、古田、そ
れに鈴木実さんもくわわって、議論
しながら推敲したあとが残っています。

「我々」は「メルヘン」を「生活童話」
を「無国籍童話」を「少年少女読物」
を克服して「少年文学」をめざすと
した、1,3000字ほどの「宣言」は、
日本の子どもの文学が大きく変わる
きっかけを作りました。敗戦後の子



どもの文学は、「戦争」や戦争を引き
起こす「社会」を描かないわけには
いかなくなったのです。そうした新
しい主題を書く、新しいことばがも
とめられました。詩的、象徴的なこ
とばで心象風景を描くようなもの
だった「童話」が、1960年前後
には、もっと散文的な「現代児童文学」
へと転換します。

「宣言」のいう「少年文学」の「少年」
は、少年少女の少年ではなく、幼年
／少年／青年／壮年の少年のはずで
すから、「子ども」ということ。「少
年文学」は、「現代児童文学」と同義
だと思われず。

古田足日が「宣言」を深めるため
に書いた数々の評論が新しい状況を
拓いていきます。鳥越信は、「童話
を克服して」「現代児童文学」が生れ
るという歴史観を研究的に裏付けよ
うとしたのか、膨大な資料をあつめ
ます。やがて、その鳥越先生の手も
との資料約12万点が寄贈されて、当
財団の設立（1980年7月）と旧
大阪府立国際児童文学館の開館（1
984年5月）につながっていくの
です。この「少年文学宣言」は、国際
児童文学館にとっても遠い源なのか
もしれません。

ことしは戦後79年、来年は80年。
敗戦後に「現代児童文学」がどのよ
うにして生まれたのか、もう一度
資料をもとに考えてみたいと思いま
す。

第19回国際グリム賞

クレア・ブラッドフォード博士が受賞

国際グリム賞は一般財団法人金蘭
会および大阪府立大手前高等学校同
窓会金蘭会との共催で、国際的分野
で児童文学界に貢献した研究者に対
し、隔年で贈られる賞です。

第19回の令和5年度は、オースト
リア・デーキン大学名誉教授の
クレア・ブラッドフォード博士が受賞
され、授賞式と記念講演会を行いま
した。

リスム、少女観、児童文学における「中
世」などの研究を通して、広い視野
で「先住民性」をテーマとした研究
を行っています。

博士は、2007年から2011
年まで国際児童文学学会会長を務め
ました。加えて、世界中の主要な学会
や協会、大学などで招聘され、基調講
演や討論に参加しています。

〈講演の概要〉

オーストラリアの児童書の挿絵や
絵本の歴史の中で、植物がどのよう
に描かれ、どのような意図が読み取
れるかを分析し、語られました。

描かれる植物からは、植民地主義
的な考えや、環境とのかかわりが読
み取れます。また、近年は植物と共
存する姿を描く絵本も出てきました。

■参加者：60人

■通訳：松下宏子さん（関西大学
ほか非常勤講師）

〈授賞理由〉

クレア・ブラッドフォード博士は、
多様な研究活動を通して、国際的な
児童文学研究に多大な貢献をしてき
ました。

多文化主義、植民地主義、ポスト
コロニアルリズムなどの新しい分野の研
究をリードし、オーストラリア・アボ
リジニ、環境批評、トランスナショナル

第19回国際グリム賞 贈呈式・記念講演会



イタリアの絵本作家 フランチェスカ・サンナさん 来日

イタリアのサルデーニャ島出身でスイス在住の絵本作家フランチェスカ・サンナさんをお招きして、講演会と子ども向けワークショップを開催しました。



▲国際講演会▼
「イタリアの絵本作家フランチェスカ・サンナ自作を語る」

難民の家族の様子を描いた『ジャーニー国境をこえて』（青山真知子訳きじとら出版2018年9月）や子どもの不安な気持ちを擬人化した『ひみつのピクピク』（なかがわちひろ訳あかつき教育図書2019年4月）などの絵本の制作過程をお話されました。
開催日：令和5年10月7日（土）

イタリアの絵本作家 フランチェスカ・サンナさんと 絵本をつくりました！

サンナさんが、『ひみつのピクピク』の絵本を紹介したあと、子どもたちは自分のピクピクをワークシートに記入し、それをもとに絵コンテをかいて絵本を創りました。



ワークショップ

「イタリアの絵本作家フランチェスカ・サンナさんと絵本をつくらう！」

開催日：令和5年10月8日（日）
場 所：大阪府立中央図書館
参加者：15人
主 催：当財団
*子どもゆめ基金助成活動

場 所：大阪府立中央図書館
通 訳：松下宏子（関西大学非常勤講師ほか）

参加者：32人
主 催：当財団

*子どもゆめ基金助成活動
*フランチェスカ・サンナさんの招へい事業は、左記の各社からご支援をいただきました。
サントリーホールディングス(株)、ムサシ・アイ・テクノ(株)

○講演会・ワークショップの報告集を販売しています（880円）。

フォーラム 児童文学とは何かを問い続けて 三宅興子の仕事を顧みる

当財団の前理事長で児童文学者の三宅興子さんは、長年にわたって絵本研究、英語圏を軸にした児童文学研究を行ってこられました。そこで、三宅さんの業績を顧みることで、児童文学・児童文化の歴史を振り返るフォーラムを開催しました。また、三宅さんは、ほぼすべての蔵書を大阪府立中央図書館国際児童文学館に寄贈されました。その中の貴重な資料が図書館のエントランスで展示され、当財団も企画協力しました。

開催日：令和5年12月17日（日）
場 所：大阪府立中央図書館
講 師：多田昌美（美作大学教授 藤井佳子（大阪公立大学非常勤講師）、松下宏子（関西大学 ほか非常勤講師）

参加者：58人
主 催：当財団
後 援：大阪府立中央図書館

*子どもゆめ基金助成活動

講演会 児童文学のしあわせ

開催日：令和5年9月16日（土）
場 所：大阪府立中央図書館
講 師：八束澄子（児童文学作家）
参加者：71人
主 催：気になる本を読む会・当財団
協 力：大阪府立中央図書館



*子どもゆめ基金助成活動

オンライン講座 2022年に出版された 子どもの本から

2022年に出版された子どもの本約300冊をテーマやジャンル、年齢別に紹介し、現在の子ども本の傾向について考える講座をオンラインで配信しました。

配信日：令和5年7月15日（土）
12月15日（金）
講 師：土居安子（当財団総括専門員）

参加者：150人
主 催：当財団

国際シンポジウム 中由美子と 中国児童文学の世界

2022年11月に亡くなられた、中国児童文学翻訳者である中由美子さんの仕事を振り返り、中国語圏児童文学の魅力について語り合いました。

開催日：令和5年11月26日（日）
講 師：秦文君（作家、中日児童文学美術交流中心会長）ほか

参加者：53人（オンラインを含む）
主 催：中日児童文学美術交流センター・中国児童文学研究会・当財団

目録 童話と絵本のグランプリ

アマチュア作家を対象にした創作童話と絵本のコンクール「第40回日産童話と絵本のグランプリ」を実施しました。審査の結果、入賞作品38編を決定しました。

応募数

童話の部 1,490点、絵本の部 277点 計1,767点

童話の部 大賞

「今日にかぎって」 樺島 さくらさん

絵本の部 大賞

「つらつら」 スージイさん

●表彰式を令和6年3月9日（土）に大阪府立中央図書館ライティホールで開催しました。また、40周年記念フォーラムを実施し、YouTubeで無料配信しています。

40周年記念フォーラムで、童話を語る・絵本を描く・童話・絵本のつくり手を目指すみなさんへ！

講師：黒井健（絵本画家）、高島純（絵本作家）、富安陽子（童話作家）、吉橋通夫（児童文学作家）

進行：宮川健郎（当財団理事長）
配信開始：令和6年5月17日（金）

第39回童話の部大賞および絵本の部大賞作品をB1出版から令和5年12月に出版しました。

童話の部「あたしは本をよまない」



リン/作
コウタリ/ちば みなこ/絵

絵本の部「なんかひとりおおくない？」



うめはら まんな/作

子どもに本を 手渡す人のために

講座への講師派遣

子どもの読書活動にかかわるボランティア、司書、学校司書、教員、保護者や子どもの本に関心のある人等を対象とした、本の選び方や読書活動のあり方に関する研修や、本の楽しさを伝える講座、講演会、読書会の講師として、総括専門員、特別専門員を派遣しました。
・実施回数：45回

●気になる本を読む会

大阪府域の学校司書とともに、選書をはじめとする学校図書館活動に関わる研究会を実施しました。
・登録者数：27人
・実施回数：12回

●審査員・委員など

左記の事業等に、審査員や委員として参加しました。
・第19回大阪こども「本の帯創作コンクール」
・令和5年度「心の輪を広げる体験作文」審査（大阪府福祉部）
・第42回人権啓発詩・読書感想文審査会（大阪府府民文化部）
・「コープのえほんでスマイル」専門委員会（大阪いずみ市民生活協同組合）

●日本児童文学学会関西例会（第153回、154回）を、大阪府立中央図書館多目的室で、令和5年5月20日（土）、9月30日（土）に開催しました。

主 催：日本児童文学学会関西例会・当財団
協 力：大阪府立中央図書館

●英語圏児童文学会 西日本支部

夏の講演会を、大阪府立中央図書館多目的室で、令和5年6月24日（土）に開催しました。
主 催：英語圏児童文学会 西日本支部・当財団
協 力：大阪府立中央図書館

子どもたちに おはなしの楽しさを

●おはなしモノレール

貸切モノレールの中でおはなしを楽しみ、彩都西の会場でパネルシアターを観る「おはなしモノレール」を実施しました。

日時：令和5年9月21日（土）
定員：240人
協 賛：大阪モノレール(株)、阪急阪神不動産(株)、(株)ベネッセコーポレーション
協 力：彩都（国際文化公園都市）建設推進協議会
*子どもゆめ基金助成事業



●大阪府立中央図書館との連携

大阪府立中央図書館こども資料室でおはなし会5回を開催しました。
出 演：職員、おはなしポップ

●小学校や図書館でのおはなし会やワークショップ

・山田駅前図書館おはなし会（2回）
・国立国際美術館「ちっちゃなこどもびじゅつあー」
・豊中市立東丘小学校での小学生を対象とした、物語体験ワークショップ（2回）
・同志社国際学院初等部おはなし作りワークショップ
・「本で世界を旅しよう」（生駒）

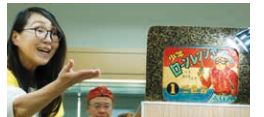
●日中韓子ども童話交流 2023

日本、中国、韓国の子どもたちと一緒に絵本作りをしました。
日 時：令和5年8月16日～23日
場 所：韓国
参加者：100名
主 催：日中韓子ども童話交流事業実行委員会

●街頭紙芝居の実演

「むかし紙芝居を楽しもう」
開催日：令和5年11月4日（土）
場 所：大阪府立中央図書館
出 演：（一）社 塩崎おとぎ紙芝居博物館

主 催：大阪府立中央図書館国際児童文学館、当財団
協 力：（一）社 塩崎おとぎ紙芝居博物館



●「おはなしポップ」と「人形劇サークルぱれっと」の財団事業への参画

子どもと本をつなぐさまざまな事業に当財団所属のボランティアグループに参画していただきました。
また、「おはなしポップ」は、絵本やおはなしに関する研修を3回行いました。

本の海大冒険の リニューアル

インターネットで読みたい本が探せるサイト「本の海大冒険」をYouTube版「本の海大冒険」と連携させ、データの入れ替えおよび、新刊図書のデータの追加し、いつもの充実を図りました。
また他にも、「ドキドキ絵本づくり for Kids」や「マンガのひみつ大冒険」も公開しています。
協 力：(株) ジャステイス
*子どもゆめ基金助成事業

ほんナビきつず

子どもの本をあらすじ。キーワードから探す

「ほんナビきつず」はインターネットで楽しく遊びながら、ことばや感情を選ぶことによってお気に入りの本に出会うシステムです。
キーワード、あらすじは当財団で独自に作成。令和5年度は1,619冊の本を追加しました。
共同開発：富士通Japan(株)

子ども読書活動の 推進のために

●大阪府子ども読書活動推進施策への協力
・多言語読書活動推進事業への協力
府域の外国語のルーツのある保護者や子どもの読書環境の充実に資することを目的として、外国語絵本リストの作成および外国語絵本の選書・購入を行いました。
(1)外国語絵本リストの作成
インドネシア語、スペイン語、ネパール語、ヒンディ語、ポルトガル語の絵本リストを作成しました。
(2)外国語絵本の選書・購入
インドネシア語、スペイン語、ネパール語、ヒンディ語、ポルトガル語などの絵本150冊を選書し、購入しました。

X(旧ツイッター)、インスタグラムで投稿しています



YouTube公式チャンネル

＜大阪国際児童文学振興財団公式チャンネル（ICLO）＞では、YouTube版本の海大冒険（絵本編、読物編、YA編、科学編を毎週金曜日に、大人向けに紹介する「新刊子ども本ここがオススメ」）を毎月10日に配信しています。ぜひご覧ください。チャンネル登録もお願いいたします。
◆財団ホームページに、公開内容一覧と、動画へのリンクを掲載しています。

内容 もりだくさん！ メルマガ発行、 ぜひ会員登録を

毎月メルマガマガジンを発行しています。発行は、月1回、毎月20日頃に配信しています。登録は無料です。皆さまの登録をお待ちしています。

令和6年10月22日現在、登録数は4338人です。内容例は左記のとおり。

- 1 お知らせ
財団からのお知らせコーナー
- 2 コラム
1) 新刊書の紹介
専門職員が理事長、児童文学者と毎月一冊の本を選んで対談します。本に対する新しい見方が発見できます。
2) 児童文学作家や作品についてのエッセイ
宮沢賢治作品などについて興味深いポイント、理事長と専門職員が交互に紹介します。
3) 子ども本の珠玉のこぼれ
子ども本の児童文学の評論書にある、印象深い言葉を紹介するコーナーです。
4) 行って来ました！
展覧会や映画、講演会など、子どもの文化に関わる催しのレポート
- 3 全国のイベント紹介
他団体等が実施するイベントを紹介
- 4 プレゼント
今号でとりあげた本やイベントグッズを抽選でプレゼントします。
- 5 宮川健郎 私の出会った児童文学者たち
宮川健郎の視点から現代日本児童文学史の語り直しを試みています。

共同研究を行いました

●明治・大正期における児童文学・児童文化史の研究―巖谷小波未発表資料の検討を通して

明治・大正期の児童文学についての調査研究を外部研究者とともに行いました。

・研究会の開催（2回）
・研究メンバー

浅岡靖央（白百合女子大学教授）、大貫俊彦（千葉工業大学准教授）、香川雅信（兵庫県立歴史博物館学芸課長）、柿本真代（京都華頂大学准教授）、金成研（愛知淑徳大学教授）、酒井晶代（豊岡短期大学講師）、松本育子（刈谷市美術館館長代理）、目黒強（神戸大学大学院准教授）、宮川健郎（当財団理事長、武蔵野大学名誉教授）、遠藤純（当財団特別専門員、武庫川女子大学准教授）、土居安子（当財団総括専門員・研究代表者）

●独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業 基礎研究（C） 令和2年度〜令和5年度

●古田日と子どもの文化をめぐる総合的考察―蔵書・資料のデータベース化、調査を基に

●独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業 基礎研究（C） 令和2〜5年度
（研究分担者：宮川健郎、令和2〜5年度）

●冷戦前期・東アジア英米文学のジオポリティクス

●独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業 基礎研究（B）
（研究分担者：鷺谷花、令和2〜5年度）

●日本における女性映画バイオニア・フェミニスト映画史の国際的研究基盤形成

●独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業 基礎研究（B）
（研究分担者：鷺谷花、令和2〜6年度）

●国語科教育における「近代童話／童謡」再評価と新教材の発掘をめぐる調査研究
*独立行政法人 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基礎研究（C）
（研究分担者：宮川健郎、土居安子、令和4〜7年度）

論文集

『大阪国際児童文学振興財団 研究紀要』第37号の発行

今号も、大阪府立中央図書館国際児童文学館の資料を活用した研究論文を公募しました。5編の応募があり、3編を採用しました。

【目次】
岸邊福雄「ラヂオ童話批判機関を神さまに祈る」の背景 畠山兆子

【研究ノート】

教育における口演童話の受容過程―大塚講話を中心に― 宮路大朗
高尾亮雄（楓蔭）の研究 ―巖谷小波との接点を中心に― 遠藤 純
雑誌『児童文学』刊行までの経緯と、その販売状況について 森中秀樹

【令和2年〜5年度JSPS科学研究費成果報告】
科学研究費補助金 研究活動報告
「明治・大正期における児童文学・児童文化史の研究―巖谷小波未発表資料の検討を通して―」

巖谷家所蔵 巖谷小波関連絵はがき等の概要について―小波宛て絵はがきの差出人― 土居安子
巖谷小波 欧州から家族に宛てた89通の絵葉書（1900〜1902）―家長・夫・父親としての小波―

中川理恵子
アメリカからの小波絵葉書 柿本真代
明治期における巖谷小波のお伽川演（講演）活動―巖谷家所蔵絵葉書および関連資料からの検証― 遠藤 純

巖谷小波の花巻巡講―花城尋常高等小学校（大正四年九月一五日）の絵葉書を出発点として― 酒井晶代

巖谷小波絵はがきコレクションにみる絵はがき文化と交友圏―「すみや書店」鹿塩秋菊に注目して― 大貫俊彦

【第10回国際プリム賞記念講演会】
Fellowship with Australian Foliage: Visual Representations of Vegetal-human Relations in Australian Children's Literature
Clare Bradford

オーストラリアの緑との交流―オーストラリア児童文学における植物と人間のかわりの図像的表象―
クレア・ブラッドフォード
翻訳：松下宏子

出版や展示の企画を行いました

貴重な資料の複製や作家選集、論文集など児童文学・児童文化に関わる各種出版事業の相談に応じています。

●電子図書館まびライブラリー

（株）ベネッセコーポレーションから受託し、選書の支援を行いました。

●出版社等による企画協力業務の受託

（公財）伊藤忠記念財団「子ども文庫助成事業」の助成団体の選定を行いました。

資料を販売しています

●財団発行資料

・2023年度フォーラム報告集「児童文学とは何かを問い続けて―三宅興子の仕事を顧みる―」多田昌美、藤井佳子、松下宏子 1,320円

・2023年度国際交流事業報告集 国際講演会「イタリアの絵本作家フランチェスカ・サンナ自作を語る」／子ども向け絵本づくりワークショップ 880円

・『国際児童文学館紀要』1号〜26号 1,100円〜2,090円

・『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』27号〜37号 1,430円〜2,750円

そのほか、国際講演会報告集、論文集など多数あります。ご希望の方はお問い合わせください。（価格は税込）

寄付のご報告とお願い

令和5年度も多くのご支援をいただきました。深く感謝申し上げます。IICLOの経営状況はまだまだ厳しい状況にあります。継続してのご協力をお願い申し上げます。

【ご寄付の種類】

◇継続寄付（毎年、毎月） ◇単発寄付

【ご寄付の方法】

◇クレジットカード

ウェブサイト「Syncable（シンカブル）」の大阪国際児童文学振興財団ページから

◇ゆうちょ銀行 振替口座に払い込みください。

□座番号 00910-8-282098

加入者名 （一財）大阪国際児童文学振興財団

※ 他の金融機関からの振込の場合

店名 ○九九店（ゼロキョウキョウ店）

店番 099 預金種目 当座

□座番号 0282098

1万円以上ご寄付をいただいた方には

佐々木マキさんデザインのイクロちゃんグッズをプレゼントしています。

◆令和5年度は、309件

3,482,095円のご寄付をいただきました。ありがとうございました。

（ご寄付いただいた方々のお名前別紙をご覧ください）



資料のご寄贈をありがとうございました

今年度も出版社、作家、研究者、同人誌サークルなどから、児童書や児童書に関する資料などの寄贈をいただきました。これらの資料は、永久保存および一般の利用に供するため、大阪府立中央図書館国際児童文学館に引き継ぎました。（ご寄贈いただいた方々のお名前は別紙をご覧ください）

図	3,996冊
雑誌	2,954冊
その他資料	1,198点
計	8,148点

編集後記

「大阪国際児童文学振興財団レポート第14号」をお届けいたします。当レポートでは、令和5年度に実施しました主な事業を掲載しています。公式の事業報告、決算報告はホームページで公開しています。

図書資料の寄贈・寄付金・各種の事業協力など、皆さま方のご支援・ご協力で深く感謝いたします。引き続き皆さま方のご支援をお願い申し上げますとともに、当財団の運営について、怠惰のないご意見をお願い申し上げます。